

見直し内容

事業名	橋りょうのアセットマネジメント
担当部署	建設局 土木部 道路環境課
公開審議 (第1部) における 議論の概要	<p>■橋りょうの老朽化の現状について (本部) 橋りょうの寿命は何年か。長寿命化によってどのくらい寿命が延びるのか。 (所管) はっきりした統計はないが、50～60年程度といわれている。予防保全を行うことによって、100年程度に延びることを想定している。なお、適切な保全を行えば、その後も使用できると考えている。 (本部) すでに建設後50年以上経過している23橋の状況はどうなっているのか。 (所管) 約20橋は健全な状態で、残りについても早急な修繕を必要としないことを確認済である。</p> <p>■「長寿命化修繕計画」による取組について (本部) 建設後50年以上経過した橋が、今後30年間で4%から77%に急増するが、本計画で適切に対応できると考えてよいか。 (所管) 計画では、おおむね5年ごとに橋りょう点検を行い、状態を把握する。劣化予測に基づき損傷が小さいうちに修繕をして、低コストで維持管理する計画である。また、修繕時期を調整して費用の平準化を行うため、予算確保も含めて、継続性があると考えている。 (本部) おおむね5年ごとに橋りょう点検を行うには、1年当たり200橋程度の点検を行う必要があるが、成果指標をみると確かにそのペースで進んでいる。一方、補修工事のペースについてはどうか。 (所管) 平成22～23年度の補修工事件数が少ないが、これは21年度に計画を策定した直後で、設計業務を実施していたため。また、これまで事後保全型の修繕であったため、点検の結果、修繕が必要な橋があり、その工事を優先したということも原因の一つと考える。 (本部) 今後本格的なペースに乗っていくと、1年当たり何橋の補修工事となるのか。 (所管) 橋の規模にもよるが、計画では年間10～20橋を補修していきたいと考えている。 (本部) 平成24年度見込みが5橋であるため、かなりのペースアップが必要。コストとの兼ね合いも十分に検討して進めてもらいたい。</p> <p>■今後の計画の推進について (本部) 計画の実効性を確保するために、計画を更新する必要があるとのことであるが、なぜか。 (所管) 本計画は平成21年度に初めて策定したものであり、他の類似事例を引用して劣化予測等を行っている。そこで、本市の実際の点検結果を反映させ、劣化予測の精度を上げ、より実効性の高い計画に更新していくこととしている。</p>
市民委員の 意見概要	<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期計画をしっかりと立て、経験を積み重ねて常に見直しをして、安全性が保てるように頑張ってもらいたい。 ・長寿命化管理対象としていない「その他橋りょう」の管理計画について、計画的、継続性を保持の上、必要に応じて適切に予算を確保して施工してもらいたい。 ・素人の目では、橋の健全度を判断する事が難しいと思う。安心して利用できるような健全度を公開してほしいと思う。 ・いずれ架けかえは発生するので、早期に架けかえを行い、構造力アップを図ったほうがライフサイクルコストが低下するケースがあると思う。 ・歩道橋など、あまり使われていないところの点検も必要であると思う。 ・なるべく多くの橋を計画に取り込んでほしい。また、「計画ありき」ではなく修繕時期前でも危険な橋りょうは前倒して修繕してほしい。 ・技術やコストパフォーマンスの向上により、その都度見直しを行うべき。 ・修繕し続けることで本当に安全か疑問。 ・建設された年がわからない橋りょうを、特に注意して点検することが必要。 ・LCC(ライフサイクルコスト)を考えれば妥当な考えだが、架け替えの判断はどうするか。維持修繕しても70年はもたない。 ・修繕すれば健全度は戻るという説明だが、劣化は見えないところで進行している。 ・社会的条件の見極めにより、架け替えの選択肢も考慮する必要がある。 ・事業費がとてつもない事業なので、定期的な見直しを正しく行い、この事業計画が遂行されることを期待する。

見直し内容

市民モニター 傍聴者 の意見概要	<p><市民モニターの主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・早め早めの点検が重要。特に50年以上経過しているものは5年では遅いのではないか。 ・建設された年がわからない橋については50年以上経過している可能性が高いと思われる。点検作業については慎重に行ってほしい。 ・ゲリラ豪雨・集中豪雨等、昨今の気象及び土地開発に伴う環境の変化により、橋りょうや河川に対する負荷が増大していると考えられる。地震等も含め必要な強度・安全性の再確認も必要なのではないか。 ・事業費は「市債」に頼る部分が大きいようなので、市民の負担を考えつつ事業を進めてほしい。 ・難しい話だが、費用を平準化という視点からは理解できる。しかし計画どおり進めても将来的には、架け替えていたほうが良かったという場合があるのではないか。それは結果論でやむを得ないとしても、テレビで報道されていた、高速道路の海上部分が腐食しているような橋は使いたくない。 <p><傍聴者の主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検の基準等を明確にして、市民にもわかりやすいものにした方がよいと感じた。 ・市民がなにげなく使う施設の維持管理に莫大な費用がかかるということが明らかになった点は非常に良かった。
------------------------	---

◎事業所管部局における見直し内容(案)

○橋梁長寿命化修繕計画を適宜更新し、時代に即した有効な修繕方法を取り入れるとともに、実状に合うような修繕計画として実効性を確保し継続する。また、必要に応じて、対象橋りょうの加除や、架け替えも視野に入れて見直しを行うこととする。

○橋りょう点検を継続的に実施し、健全度を把握するとともに、建設年の判らない橋りょうについても安全性確保のため状況把握と適正な維持管理に努める。

■橋梁長寿命化修繕計画の更新

- ・計画の更新にあたっては、橋りょう点検結果の累積による劣化予測の適正化を行うとともに、新技術を使った有効な修繕方法の採用も検討し、橋りょうの実情に整合する修繕計画とする。
- ・計画対象橋りょうについては、現状の270橋を基本に、橋りょうの使用状況や、その他情勢の変化に合わせ、計画更新時に見直しを行っていく。また、修繕計画の策定にあたり、点検結果や使用状況、各種計画を勘案し、架け替えも視野に入れた検討も行うこととする。

■橋りょう点検の継続

- ・今後も橋りょう点検を定期的実施する。
- ・点検結果の公表については、結果をそのまま提示すると量も膨大で内容も複雑であるため、判りやすい指標で公表できるよう、今後の検討課題とする。

◎改革担当部局の見解

・橋梁長寿命化修繕計画の更新にあたっては、点検結果等を踏まえ、架け替えや新技術の可能性を加味して費用対効果の検証を十分に行った上で、公共施設マネジメント計画のアクションプランと連動させることが必要である。

・本計画の対象橋梁以外についても定期点検を実施し、適正な維持管理を行うことが必要である。

・本計画は専門的な内容であるが、公共施設の効率的な維持管理のために必要なものであり、今後も市民の理解が得られるよう、指標や表現をよく検討し、判りやすい方法で情報提供を行いながら継続していくことが望まれる。